

令和2年度
第6回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和3年3月23日（火）午前9時35分～10時35分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市総合教育会議

日時:令和3年3月23日(火)

午前9時30分～

場所:市役所大会議室

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 大野市小中学校再編計画改訂(案)について

(2) 大野市総合教育会議運営要綱の改正について

4 その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	政策局長	真 田 正 幸
2	総合政策課長	加 藤 智 恵
3	教育委員会事務局長	清 水 啓 司
4	教育総務課長	横 田 晃 弘
5	学校教育審議監	千 田 佐
6	生涯学習課長	横 井 一 博
7	スポーツ振興室長	多 田 直 人
8	文化財課長	佐々木伸治
9	教育総務課企画主査	竹 田 雄 次

<傍聴者>

19人

1 開会

【教育総務課長】ただ今から、本年度第6回の大野市総合教育会議を開会する。

——<市民憲章、大野市教育理念の唱和>——

2 市長あいさつ

【市長】お忙しい中、ご出席賜り感謝申し上げます。また、委員の皆さまには平素から子どもの教育、生涯学習の推進、スポーツ振興、文化財保護、文化振興など、教育行政の推進に多大なるご尽力をいただき、併せて感謝申し上げます。

本日は、教育委員会からの提案である「大野市小中学校再編計画改訂（案）について」と、市長部局からの提案である「大野市総合教育会議運営要綱の改正について」を議題とする。短い時間ではあるが、忌憚のない意見を願います。

3 協議事項

【市長】「大野市小中学校再編計画改訂（案）について」を議題とする。事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長説明>——

【市長】教育委員会では、小中学校再編計画検討委員会からの報告を受け、これまでに2回の議論を行っているとのことなので、まず、私からお話させていただく。

平成30年8月の総合教育会議において、私から教育委員会に小中学校再編計画の見直しを依頼したところからこの取り組みがスタートした。計画の見直しに当たっては、学校の校数、再編の時期、再編の方法等について、住民の声を聞くところから始めてほしいとお願いした。その後、教育委員会で計画の見直しを決定し、見直しの取り組みを進めていただいた。教育委員会では、先進的な類似の事例がある自治体の視察、教育シンポジウムや住民との意見交換会の開催、アンケート調査の実施等を経て、本年度は毎月のように小中学校再編計画検討委員会を開催していただいた。検討委員の皆さまが、子どもたちのために真摯にご議論いただき、さらに教育委員の皆さまがご検討いただいた結果として、本日提案いただいている小中学校再編計画改訂（案）までたどり着いたと思う。これまでの経過に関して、着実に丁寧に進めていただいたことに、心から感謝を申し上げます。時間は掛かったが、市民の皆さまの色々な思いを汲み取りながらまとめていただいた。この計画改訂（案）をいい方向で実現できるよう、市長としても努力していきたい。

本日ご提案いただいている小中学校再編計画改訂（案）の内容については、基本的に尊重すべきであると考えている。その点を踏まえて、教育委員の皆さまから何かご意見があれば願います。

【教育長】教育委員会では、「慎重に、丁寧に、着実に」を念頭に置いて計画の見直しを進めてきた。この考えは、教育委員会の全ての取り組みにおいて意識していることである。その中で、昨年度は41回の意見交換会を開催し、本年度は小中学校再編計画検討委員会を開催してきた。検討委員会に対しては、教育委員会としての考え方や、昨年度の意見交換会でいただいた意見を総括した基本方針を提示するなど、適度な距離を取りながら連携して検討を進めてきた。教育委員会としては、大野市の子どもたちにどのような教育環境を整備することが最善であるかを考えながら取り組んできた。そのような経過を経て本日の提案に至っている。

【馬道委員】児童生徒数の変化もあるが、国の教育制度も変わろうとしている時期なので、一気に再編を進めるよりも段階的に再編を進めるという方針はいいと思う。また、段階的な再編に向けて、小規模ながらも協議体を設置して状況の把握を継続するという進め方もいいと思う。

中学校については、専門教科教員を確保するということがとても重要だと思う。その点において、1学年4学級以上を設置するという方針は適当だと思う。また、子どもたちの部活動の選択肢が増えるという点でもいいと思う。最近読んだ本の中に、「これからの時代は、自分で判断して主体的に生きていくことが求められる。そのためには、小さいうちから自分で選択する体験を多く積むことが大切である。」ということが書いてあった。中学校の部活動についても、少ない選択肢から選ぶのではなく、いくつかの中から自分に合った部活動を選ぶという体験をさせてあげたいと思う。そのような観点から、ある程度の規模を確保するために中学校を2校に再編することはいいことだと思う。

小学校の再編については、まず、複式学級を解消するという方針である。私が教員時代に複式学級を担当した経験から言うと、複式学級の子どもたちは、自学する力はあるが、色々な意見を吸収することが難しい。また、細かいことだが、理科の授業の時に、一方の学年は実験、もう一方の学年は野外観察ということができない。これを解消する方法として、異なる学年が同じ内容を学習するという方法があるが、授業の進み方が通常と異なるので、途中で転校した場合などに子どもたちが困ることになる。そういった意味では、まず、複式学級を解消するという方針は適当であると思う。

また、「小学校期は可能な限り地域の温かい見守りの中で育てる。」という方針もあるので、生まれ育った地域の自然や文化、芸術などは、これからも大切にしてもらいたいと思う。具体的には、小山地区の鉄踊りや阪谷地区であれば、食育の祖である石塚左玄が生まれた土地なので、そういった文化や歴史を受け継いでいてもらいたい。小学校が統合されたとしても、放課後子ども教室などで、それぞれの地区の自然に触れることや、伝統や文化を学ぶことを続けていてもらいたいと思う。

【松田委員】若い世代の方に、大野に住み続けたいと思ってもらうためには、よりよい教育環境の実現が条件になると思う。今回の計画改訂（案）では、先行再編について、「保護者および地区の総意の下で統合の申し出があった場合には、柔軟に対応します。」と記載されている。これまで、地区の方々に学校が支えられてきた経緯があるので、当然、地区の総意は大切だが、若い世代の中から、子どもたちのために、もう少し早く再編を進めてほしいという声が上がってきた場合には、それをしっかり受け止めて、少しでも再編時期を早めることができないか、教育委員会として検討していかなければいけないと思う。

【松谷委員】市民の声をしっかり聞くことを大切にしたいと思う。丁寧に検討が進められ、ありがたかったと思う。

私としては、大野市の地域性を生かすということをお願いしたい。例えば、高校では、4月からタブレットを使用することになっている。小中学校でもタブレットを活用した学習方法を学び、それを高校につなげていくというような小さなことから、18年間教育を進めていってほしい。また、深い学び、個別学習、共同学習については、学校の枠を超えた大野市全体の学びであってほしいと思う。

小学生の保護者から、「中学校に入ったときに部活動の選択肢が増えるのであれば、小学校のうちから基礎的なことを準備していこうと思う。」という話を聞いた。前向きな意見が表れてきていると思うので、計画改訂（案）の説明会では、そのような声を吸い上げてほしいと思う。

【羽生委員】先週、卒業式に出席した際に、コロナ禍で逆境の1年だったが、子どもたちはあきらめることなく、オリジナリティを持って行事や活動に取り組んできたという話を聞いた。みんな清々しく、いい表情をして巣立っていった。子どもたちの未来を考えたときに、子どもたちが希望を持てる学校再編にしていかなければならないと気持ちを新たにしたい。

私が一番大切にしたいのは「慎重に、丁寧に、着実に」ということである。昨年度の意見交換会は40回程度開催されたが、来年度の住民説明会は20回程度になる。コロナ禍ということを考えると、参加したくてもできない人もいると思うので、少しでも多くの方に周知してもらい、説明会の開催方法も十分にコロナ禍に配慮した方法を考えてほしい。また、計画改訂（案）の説明に当たっては、しっかりと内容と意図が伝わるように、具体的な内容を盛り込みながら説得力のある説明を心掛けてほしいと思う。

私が一番期待しているのは、大野市の地域性を生かすということである。この考え方は、これまでの大野らしさに加えて、これから目指す大野らしさという点で生かされてくると思う。18年間教育という縦の軸と、小学校同士、中学校同士の連携という横の軸を持って取り組むカリキュラムは、大野だからこそできるパッケージだと思う。遠隔地の小規模な学校についても、横の連携で他の学校と

同じ講演を聞いたり、PTA活動に取り組んだりということが可能である。ICTの活用が進む中で、これらの取り組みが学校再編の伏線として進むことに期待している。部活動が地域型に移行し、大野市全体での部活動の在り方を考えていく上でも、大野市の地域性を生かすということは大きな意味を持つてくると思う。

また、学校再編と子どもたちの放課後の居場所づくりは、セットでなければならぬと思う。4月からは、放課後児童クラブと放課後子ども教室がどちらも教育委員会の所管になる。国の所管が厚生労働省と文部科学省に分かれており、垣根をなくすことは難しいかもしれないが、働く親世代にとって少しでも使いやすい制度になるといいと思う。

校歌や校章、校区については、今回の再編では既存のものを活用するという事になっているが、住民説明会の中で熱い思いが聞かれた場合には、検討の余地を残しておくことも必要だと思う。

学校が地域からなくなることは、住民の方々にとって寂しいことだと思うので、再編後の学校施設の利活用や跡地利用の提案ができると、少し安心感につながるのではないかと思う。

【市長】市民の方は、年代や住んでいる地域によって様々な意見を持っている。それぞれの意見を丁寧にお聞きしながら、着実に教育環境をいい方向に進めていかなければならない。その観点に立って、学校再編の検討については、慎重に、丁寧に、着実に一步一步進めてきていただいたと認識している。検討の経過はホームページでも公開されており、後から振り返って検討の経過を確認することもできる。

大野市の地域性を生かすということについては、4月から機構改革により市長部局の所管となる公民館において、地域の防災や見守り活動と合わせて、地域の自然や文化を大切にする取り組みも強化していきたいと考えている。

また、「学校再編が子どもたちの希望になるように。」「よい教育環境が若い世代にとって大野に住み続けるための条件になる。」「18年間を通した教育を進めていく。」という意見をいただいた。4月からは、子育て、保育の分野が教育委員会の所管になり、子育て、幼児、小学校、中学校、高校までをつなげていける体制になる。市と教育委員会が連携して地域性を生かした18年間教育を進めていきたいと思う。

教育行政において、学校再編は大きくデリケートな課題である。学校再編ばかりが注目を集めてしまった感はあるが、大野の子育て支援や教育には、優れている部分もたくさんある。そのような点については、市も教育委員会もさらに発信力を強め、市民の皆さまにお伝えしていかなければならないと思う。

計画改訂（案）のP13に記載されている再編に係る取り組みについては、住民説明会を経て詳細に検討していくことになるが、校舎の計画的な改修やスクールバスの導入、保護者の負担軽減といったことは、いずれも現時点で確定するも

のではないが、計画改訂（案）のとおり進むことになれば、当然考慮していく内容だと考えている。

来年度の20回程度の住民説明会について、情報を共有しておいた方がよいと思うので、事務局の説明をお願いします。

【教育総務課長】住民説明会は小学校区を基本として開催する。9小学校区で地域住民の方と保護者の方を対象に説明会を開催し、計画改訂（案）で再編の対象になっている小山地区、阪谷地区、上庄地区、富田地区については、別途、保護者の方を対象に説明会を開催したいと考えている。また、教職員を対象とした説明会も予定している。

【事務局長】昨年度の意見交換会が40回程度だったのに対して、来年度の住民説明会が20回程度という考え方について申し上げる。再編計画の見直しに当たっては、未就学児の保護者の方、小学生の保護者の方、中学生の保護者の方、地域の方というように各界各層から、それぞれの意見をお聞きすることが適当であると考えて40回程度の意見交換会を開催した。その中でいただいた意見を小中学校再編計画検討委員会に報告し、検討の過程で意見を取り入れていただき、報告書を提出いただいた。その報告書を基に、教育委員会で今回の計画改訂（案）を作成した。令和3年度からの住民説明会については、計画改訂（案）を説明する段階になり、各界各層に区分して説明するよりも、幅広い方に一堂に集まっていたいただき、そこで説明をして意見をいただくことが適当であると考え、このような計画となった。もし、会場の収容人数を超えた場合や説明会を聞けなかったという事態が生じた場合には、弾力的に対応していきたいと考えている。

【教育長】学校再編は大きな課題ではあるが、学校再編が最終目的ではない。いかに大野市の子どもたちに、よりよい教育環境を準備するか、そして、大野市の教育はどうあるべきかを考えていくことが、我々に課された使命だと考えている。来年度の住民説明会でもいろいろな意見をいただき、議論をしながら市民の皆さまと一緒に大野市の教育を考えていきたいと思う。教育の面から、大野市について一緒に考えていきたいので、今後ともよろしくをお願いします。

【市長】大野市小中学校再編計画改訂（案）については、最終的に教育委員会で策定することになるので、本日の協議はここまでとする。

「大野市総合教育会議運営要綱の改正について」を議題とする。事務局の説明をお願いします。

——<総合政策課長説明>——

【市長】今回の改正は、機構改革に伴う事務局の課名の変更である。事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【市長】大野市総合教育会議運営要綱の改正については、提案どおり承認する。

4 その他

【市長】その他について、何かあればお願いします。

——<意見なし>——

【市長】その他については以上とする。

5 閉会

【市長】これをもって第6回大野市総合教育会議を閉会する。

午前10時35分終了